

広報

のあさひ

No.338

'85
1/1

迎春



*白倉スキー場初滑り

(撮影/安藤茂雄広報委員)

町づくりに 夢と抱負



明けておめでとうございます。
 昨年は町誕生以来30周年を迎え、記念すべき年となりました。さらに町長選挙では小林富蔵氏が三選を果たし、町政担当三期目のスタートを切りました。
 そこで年の初めに当たり、小林町長と^{うし}丑年生まれのお二人に町づくりへの夢と抱負を語っていただきました。

基本構想四本の柱を土台に

●町長 明けておめでとうございます。今年は丑年です。丑年生まれのお二人と、新春の抱負などについて語り合ってみようと思います。

まず私から、ちょうど町政担当三期目のスタートに当たりますので、町政執行に対する姿勢や抱負などについて触れてみます。

昨年、第二次町総合開発基本構想・計画を策定したわけですが、これは十年後の昭和七十年を目標とし、さらに二十一世紀を目指したものでこの基本構想・計画に基づいて新しい町づくりに取り組んでいきます。その一つは、自然と調和した生活環境の整備です。町立病院の改築や下水道整備、公園やランドづくりなどがあります。二つ目には、特性ある産業の創出があげられます。これまで農、工、商、共存のバランスのとれた発展を目指して努力してきました

が、さらにいま模索している家族旅行村をここにしていけ、一・五次産業を起こしていけないか——つまりワインと合わせて山菜の活用、民芸品づくりなどを、旅行村の発展段階で創出していけないか、ということを考えています。

三つ目は、思いやりのあるたくましい人づくりです。そういう人間を育てるには、大人自身がそうならなければなりません。みなで生涯学習をすすめる態勢づくりに力を入れていきます。

四つ目は、みんなが参加する手づくりの町です。与える行政から住民自ら築きあげる行政への転換を目指し、住民との対話を深めながら知恵と力と汗を出し合う町づくりをすすめたいと思っています。以上四本の柱に加え、町職員の練成により行財政改革の実をあげていきたいと考えています。その一つの

方法として、事務の効率化を図るため、部内にOA(オフィスオートメーション)化促進検討委員会を設置して目下研究をすすめているところです。

高度情報化社会の到来、高性能ロボットの出現、バイオテクノロジー(生命工学)の進出など産業・文化の第三次革命がまもなく来るといわれており、その対応を誤ってはならないと思っています。

私の話が少し長くなりましたが、今度は皆さんから町づくりに対する御意見をいただきたいと思います。生活環境や産業の面、何でもけっこうです。

山形朝日線は 生命線

●清野 県道山形朝日線の改修工事が始まって二十年以上になるそうですが、山形市へ行くのにいちばん短距離の道路なわけで、山形市方面へ通勤する人や通学する学生のためにもぜひ必要です。それに、山形や仙

＊出席者

四ノ沢 清野文一 (農業・23歳)

大谷七 小野芳子 (教員・23歳)

朝日町長 小林富蔵 (大沼・66歳)



小野 芳子さん



清野 文一さん



小林 町長

若者の力

新春にかける



この子どもたちに輝かしい未来を贈りたいものだ

台からの観光客を呼ぶためにもたいせつな道路だと思っています。整備促進同盟会などで陳情運動を展開しているわけですが、工事はなかなか進まないようです。早く完成するように、町民あげて全力で取り組んでいきたいものです。

●町長 朝日町と山辺町の沿線住民でつくっている整備促進期成同盟会、行政でも山形市、山辺町とタイアップして整備促進運動をすすめており、町の区長会で

も町全体の課題としてとらえ取り組もうと話し合われているようです。

私も主要地方道・山形朝日線の整備はこれからの朝日町にとって重要な課題だと思っており、67国体までにぜひ完成してもらおう、国や県に強く要望しているところです。

●小野 道路の話が出ましたので、私も常々思っていることがあります。

自宅から勤務先の立木小学校まで十五キロあり寒河江市までより長い距離なんです。立木への通勤時間のほうが寒河江市へ行くより短かくて済みます。ということは、それだけ朝日町内の道路が整備されているんでしょうね。

ただ冬期間渋滞して困るのは夏草です。あそこさえ直してもらえば、町内の道路すべてが良くなったことになると思います。

●町長 夏草地内は住宅が込み入っており、発電所もあるので、路線が問題となっているんです。しかし、主要地方道・長井大江線の

松程皆朱沢地内の工事が昭和六十二年に終われば、夏

文化会館と公園づくりを

●小野 これからの町の構想として、秋葉山公園や西部公園、立木溪流公園などの公園があらこちに計画されていますが、たいへんいいことだと思っています。

町には自然がいっぱいあるのに、いまの子どもらは自然の中で遊ぶなくなりました。あぶない、あぶないと大人が規制しすぎる面もあります。

春には桜の花が満開になり、秋には木々が紅葉する美しい大きな公園がほしいですね。それも子どもから若者、お年寄りまでのんびりと憩えるような公園を町の中心部に整備してもらいたいと思っています。

現在の緑ヶ丘公園はグラウンド中心だから、スポーツをしないと行っているような感じがします。

●町長 緑ヶ丘公園の整備については、補助を受けながらの事業でしたので、用

草地内の改修に入る、と県では言っているようです。

地買収も年次計画です。できてきました。それで施設の整備が遅れたわけですが、昭和五十九年度で用地買収が終わったので、六十年からは広場、遊具、駐車場、プールなどの整備をすすめていきます。

また、秋葉山は将来総合公園に、西部には現在建設中の健康増進センターに加え公園を整備するなど、若者に魅力のある環境づくりに努めていきたいと考えています。

●清野 若者に魅力のある環境をというお話ですが、朝日町には文化施設が不足していると思います。

例えば、私たち青年団が昨年統一劇場という劇団を東京から招いて公演をやったんですが、町民体育館が会場でしたので、音響や照明設備がうまくいかずたいへん苦勞しました。

中央公民館のホールもあ

るわけですが、いまでは手狭になっており、若者や芸文協の音楽、演芸活動がしだいに高まっている中で、文化会館の必要性を最近つくづく感じます。

●小野 もっともですね。町内の学校が一緒になって芸能鑑賞会を計画するわけですが、中央公民館のホールでは狭く、体育館では音響・照明が悪いので出演団体にことわれます。子どもたちが小さい時から



リングゴを利用した料理やお菓子づくりが広まっている

ら芸術に親しみ、音楽や演劇の良さを感じとることはとてもたいせつなことです。豊かな心を育くみ、大人になってからも、きつと日常生活の中で文化活動を続けていくことでしょう。

●町長 これは痛い問題だね。都会では文化会館みたいなものを民間で建てる場合もあるわけですが……。町で設置するとなれば、ばく大な金をつぎ込み、完成した後いざ活用の段階となると、年間に百日しか使わなかった、あとの二百六十日はただおく——ということでは町民のかたの中から、なぜあんなものを建てた、と言われかねない、という心配もあるわけです。

自ら文化会館を持つ、ということだけにこだわらず山形の文化会館を借り切つて、そこまで子どもたちをつれていって見せるとか、柔軟な考え方も必要です。会館がないから開催できない、ということでは、現在

いる子どもたちのことをほんとうに考えていないことにもなると思うんです。

リングづくり 積極的に挑戦

●清野 リング作りをしていて感じることもなんでしょうが、わい化栽培はリング作りの邪道だ、と最近いわれるようです。でも、長野での研修を通して、わい化の木から大玉が穫れる、という成果なども見てきましたので、邪道といわずいろいろな試みをしながら、わい化の研究をすすめていきたいと思っています。

●町長 専門の施設をすぐ設置するということは難しいことです。しかし、研究態勢づくりを生産者が中心となつてつくることはできると思っています。

朝日町のリングゴは品質のパラッキがあり、技術が平均化していないといわれます。今後は高度の生産技術

をみんなが持ち、研究開発をおこならなければ、生産過剰の時代でも生き残れると思います。

新しいことに取り組む場合でもあれだからだめだ、これだからできない、と言っているのは決して進歩はない。まずやってみてから判断すべきですね。

●小野 リングゴとワインの

朝日分校の環境整備に全力

●清野 数年前から高校朝日分校の本校への統合問題が浮き彫りにされ、町の大きな課題として町内が揺れ動いてきました。

朝日分校は私の母校ということもあり、すごく愛着を感じているんですが、それよりも何よりも、町から高校がなくなれば子どもたちにとつても、町の発展にとつてもマイナスになると思うんです。

●町長 昨年三月の町議会で「朝日分校はあくまでも存続すべき」という決議がなされ、朝日分校問題に対する町の方向が定められた

町なんですから、リングゴとワインを使った料理やアップルワイン、アップルブランドーなどを商品化できないものでしょうか。

産業まつりの時に、リング料理展をやっていました。が、リング農家の主婦を中心にぜひ実用化し、どんどんPRしていきたいものですね。

わけです。

それで、朝日分校整備促進同盟会を町一本の組織として設置し、教育施設、設備の整備・充実を図るために県に対する陳情など、いろいろな運動や事業を展開しています。

県教委では「分校への応募者数が毎年一定していない状況では、すぐ新築することはできない」と言っており、今後、朝日分校は町民みんなの問題として認識し、教育環境を整備するために何が必要か、みんな考えていかなければなりません。

姉妹都市を

実現したい

●小野 新春ですから、何か夢のある話もいいと思いますが、国際化といわれる時代ですので、姉妹都市を結ぶことなどはどうでしょう。リンゴやワインを媒介にして三カ国ぐらい姉妹都市が結ばれれば、同じ海外でも行きやすくなるのではないかと思います。

●町長 国際化時代に対応するには、我々自身が日本人らしい人間になるべきです。日本人としての文化的条件や良さを身につけておかなければ、どこの人間たかわからない。それに、海外にできるだけ行き、じかに見る。物見遊山でなく、あとは海外の文献に接することによってその国の経済、国民感情、生活様式、生活習慣などを知ることが大事ですね。

友好姉妹都市については町誕生三十周年を記念してその実現を目指して調査研究をすすめることにしまし

た。あまりあせらず、情報を集めながらじっくりと取り組んでいきたいと考えています。

●清野 ニューメディアという言葉が最近テレビや新聞などによく出てきます。

町長さんも高度情報化社会への対応を前向きに考えておられるようですが……。

●町長 光ファイバー通信やCATV(有線テレビ)

研究開発を進め活力ある町を

●小野 生き生きとした若者がたくさん住み、交流のできるような環境づくり、文化会館もそのための大きな課題です。

●清野 リンゴ並木のある道路づくり、一戸に一本のリンゴ植栽。そして、何といても日本一うまいリンゴ作りへの挑戦です。

●町長 これからの町づくりで最も必要なのは人づくりです。どんな困難にも耐える力を身につけた人間を育てることです。親も祖父母も町民みんなが共通認識を持ってもらいたいです

など新しい通信媒体による情報網システムが間もなく私たちの生活の中に入ってくると思います。いいとか、悪いとかの問題ではなく、社会全体がそうなることが明らかになっていくわけですから、その時のために心の準備が必要ではないか、と思うんです。

では最後に何でもけっこうですから夢や抱負を。

ね。それに創意と工夫の心のある人づくりですね。

その意味では、産業、経済、文化さまざまな面での研究・開発をすすめる町の総合的な発展を図るために、研究開発促進条例をつくるべく、いま準備をすすめているところです。

今日はお二人からいろいろな御意見をいただきましたが、これを機会に、いつでも、気軽に話したいだければ幸いです。どうもありがとうございました。

年頭にあたって

朝日町議会議長 松田庄治

明けましておめでとうございませう。

昭和五十九年は、朝日町誕生三十周年、小林町長三期目の就任という一つのけじめの年であったと思いますが、新しい年、昭和六十年は、町民が衆知をあつめ創り上げた「第二次朝日町総合開発基本構想」に基づく施策施行の初年度となる年であります。

社会情勢は、行財政改革がらみの国と地方との間の機能分担のあり方を見直し、国庫補助負担割合の引き下げ等による地方自治体の改革、バイオテクノロジー(生命工学)技術の開

発、ニューメディアの振興開発により、農業生産をはじめ商、工業にも大きな変換を余儀なくされてくると思います。この秋こそ、町民が話し合い、一致協力して、いい人、いい町、いい暮らし、を合言葉に町づくりを進めてこそ町の振興が実を結ぶものと信じております。

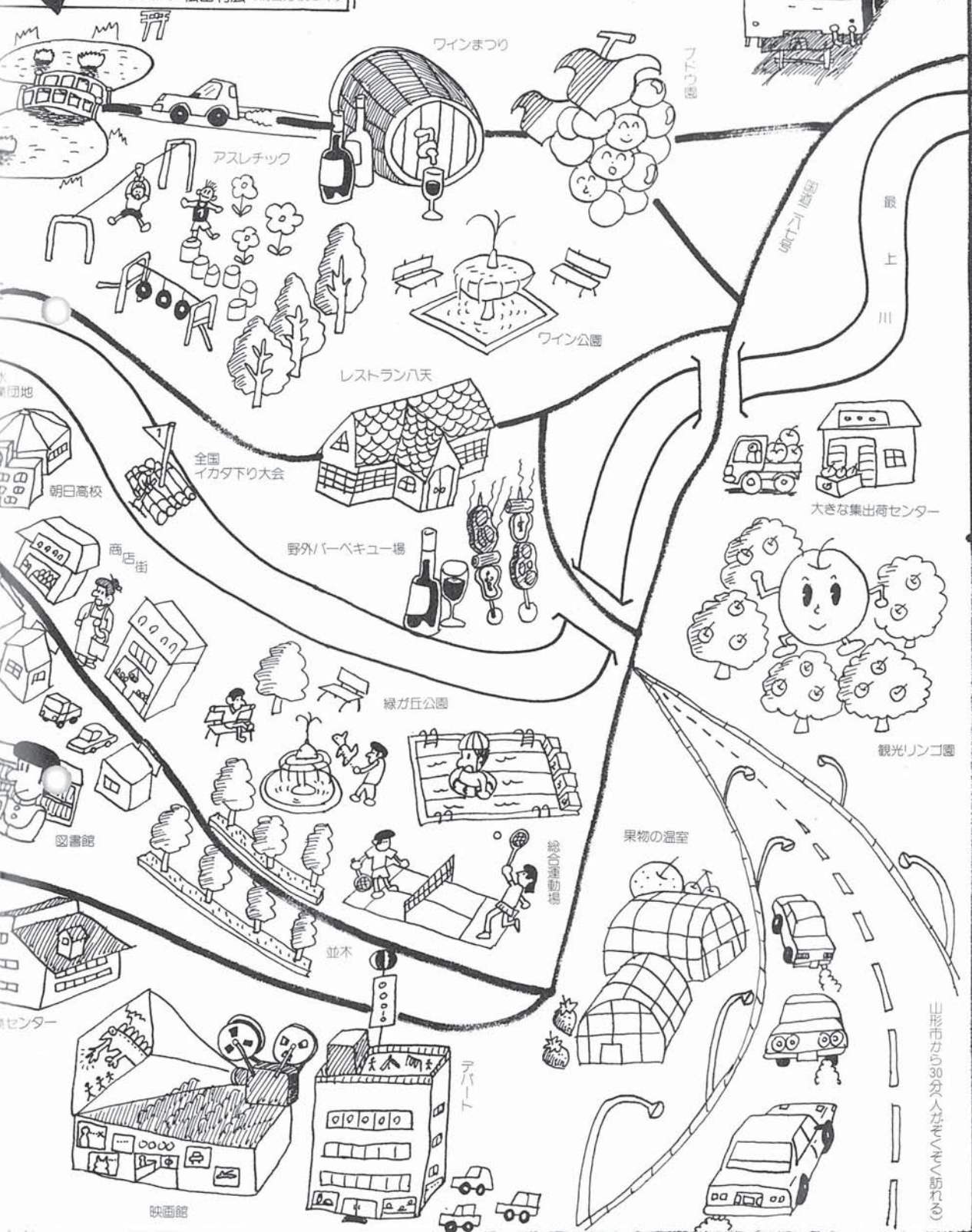
わたくしたち議員は、常に世論の現状を把握し、時代に即応した計画的、総合的な行政を通じて推進し、明るい朝日町の建設に努力したい所存であります。新しい年が、町民皆様の福祉向上がいつそう図られる年であるよう祈念し新年のあいさついたします。

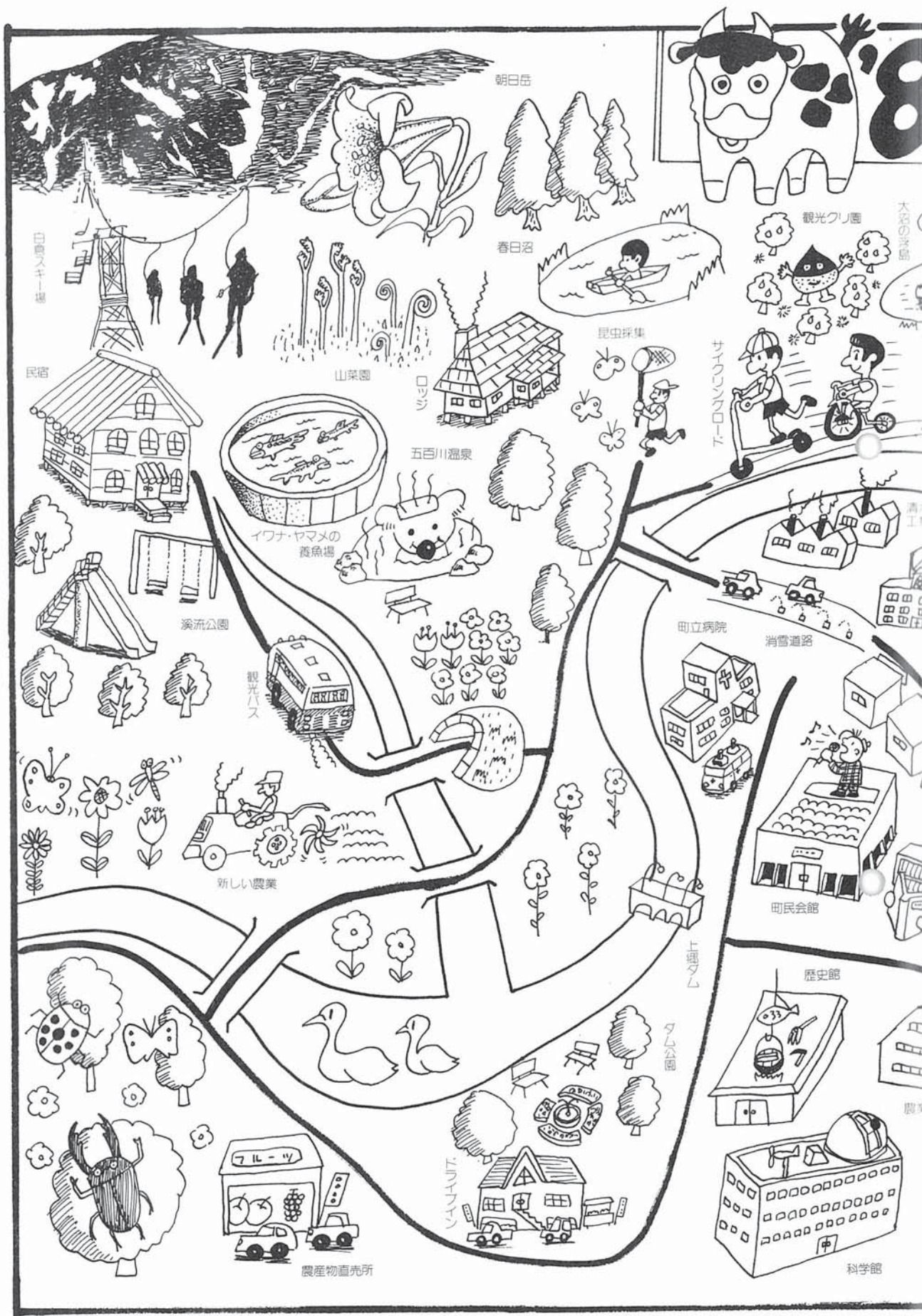


35 初夢

*イラスト／松田利広（朝日分校3年）

朝日町誕生30周年を記念して
行われた町づくり提言の中から、
子どもたちの夢を拾ってみました。







野外で草や木の観察を行う

朝日町の自然みつけ隊!!

朝日ナチュラリストクラブから

朝日ナチュラリストクラブとは、「私たちの身のまわりの自然に目を向け、観察活動をするともに、自然に興味を持ってもらうような活動をしていく」ことをねらいとして、五十九年四月に発足したものです。子ども会員十三名で、月一回の観察を行なってきました。

春を

さがしに

春はいいところからやってくるでしょう。子どもたちと雪の残るたて山にとび出してみました。

ありました。日の当たる土手には、フキノトウ、イチリンソウが。その根を調べると、長くつらなって群生することがわかります。頭上の木には、目立たないがたくさん咲いたマンサ

クの花、春にまんず咲くのがマンサクの花です。

雪の上には動物たちの足跡がありました。牛の足跡で、どっちに向ったかテストしてみました。

子どもたちはわいわい話し合っていました。深く掘られた方が前だと気がつきました。野犬の足跡では、ネコと違いツメ跡が残ることも学びました。

目をつぶると澄んだ空気に、鳥のさえずり、五感を使っての自然観察です。

鳥の声の聞き分けはうまくいきません。それでも、目をつぶったほうがよく聞けるとわかってきました。そんな中、子どもの興味をひきつけたのは、太い骨のような化石群でした。もしや『タテヤマダイカイギュウ』か。

後で調べた結果「生こん」といって、海の動物が穴を掘って生活した跡の化石だとわかりました。それでも持ち返った子どもには、宝物として残ることでしょう。

夏の夜の

星座たち

初めてのキャンプは一つ沢です。

夜、子どもたちはなかな

* 朝日ナチュラリストクラブの活動

月 別	活 動
4 月	たて山自然観察会
5 月	一ツ沢山菜教室
6 月	宮宿周辺
7 月	一ツ沢キャンプ
9 月	宮宿周辺
10 月	朝日連峰少年登山
11 月	カモシカ観察会
12 月	映写会、緑の国勢調査のまとめ
1 月	少年雪上教室
3 月	反省会

か寝つかれませんでした。夜は生き物をすぐそばに感じさせるからでしょうか。寝ころがっての星座観察は、山の夜の醍醐味です。何光年も離れた星も、小さな懐中電燈で差し示すことができます。

まず北極星をさがします。北斗七星の二つ星の距離を二本の指におさめて五倍すると、北極星がみつかります。

くると正反対の南の地平線上には、赤いサソリ座のアンタレス。頭の上の十字にみえる白鳥座。それをはさんでこと座のベガとわし座のアルタイルが織姫、彦星であり、七夕の夜に、白鳥が羽を広げて橋渡しを

秋の

朝日連峰

今年にはブナの実の多い年でした。鳥原山登山の帰り道、ブナの自然林の中で、子どもたちは初めてブナの実を手に入れました。クマも食べるという三角のブナの実を、子どもたちも食べてみました。クルミのようでとてもおいしいとい、たくさん拾いました。

数年に一度実するというブナの実が地面に落ちて、クマやリスの食べ物となる。芽を出しても弱い芽は、自然淘汰され、強いものだけが残って成長します。こうして自然の形態が保たれるということを子どもたちは学びました。

しかし、いつも自然は思うような姿を見せてくれるとは限りません。

カモシカを見ようと、朝日鉱泉まで出かけた時のことです。葉の落ちた秋の終わりは、カモシカを観察するにはもってこいなのです。

双眼鏡の使い方や、カモシカを驚かさないことなどを聞いて林道を歩き始めました。双眼鏡をのぞくと、対岸の峰は手にとるように見えます。

オオタカが空を舞っています。

しかし待っても、待ってもカモシカは姿を見せませんでした。

子どもたちは木川ダムで見たカモをさして、「カモシカ観察会」と名づけまし

た。

ぼくら

ナチュラリスト

遠くへ出かけることだけが自然観察ではありません。

ナチュラリストクラブでは、「緑の国勢調査」に参加して、宮宿周辺の自然も見てきました。私たちの住んでいるまわりに、どんな植物があり、どんな動物がすんでいるか、日本じゅうで調べるものです。

例えば、タンポポでは、在来(日本)タンポポ、セイヨウタンポポの両方を見つけたが、秋にも花が咲いているのを確認しています。

また最上川ではアユのハミ跡、アユがコケを食べた二本の筋の跡も見つけました。

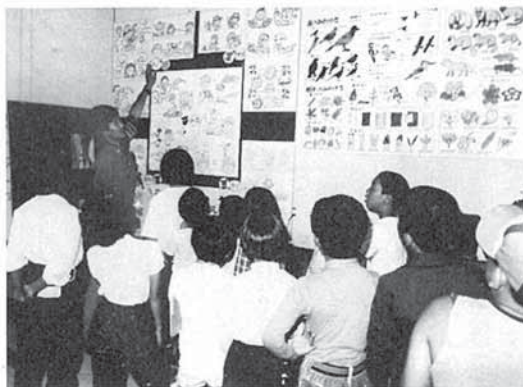
私たちは自然に恵まれた所で毎日暮らしています。しかし、どんなに恵まれてい

ても、自然に接する機会をつくり、努力をしなければ、自然は私たちにその姿を見せてはくれません。

でも子どもには自然を感じとる感性が生まれながらにして備わっているのです。身のまわりの自然を見る目を養うことで、じゅうぶんナチュラリストになれるのです。

どんなナチュラリストが育つかこれからが楽しみです。

△編集／教育広報委員会▽



パネルを利用して観察の仕方を学ぶ(一ツ沢自然観察センターで)



アジア・アフリカ

へ救援募金

*朝日中生徒会

このほど、朝日中の生徒会(遠藤秀彦会長・三八六名)では、アジア・アフリカ救援募金を行い、六一、七九三円の募金が集まりました。

集まったお金は、ユニセフ(国連の児童基金)を通して、飢餓に苦しむアジア・アフリカの子どもたちの救援金として贈られました。



たくさんの募金を前に生徒会の役員

町の顔にこだわりを 商工会が講演会開く



講演を聴き、町づくりの方向を探る参加者

商工会が今年度行なっている地域問題対策推進啓発事業の一環として、去る十二月十八日、「地域産業おこしの課題」をテーマに講演会を開催しました。

会場となった中央公民館大ホールには、商店主や企業経営者、農家の人など約一二〇名が出席。講師として招いた山大人文学部教授の大川健嗣氏の講演に真剣に耳を傾けていました。

大川氏は講演の中で「まず町の顔をつくることだ。朝日町は『リンゴとワインの里』という顔を持っているが、これにもっとこだわってほしい。リンゴを利用した料理やお菓子などを実際に喫茶店で出せると思うし、ワインまつりなども東京、仙台をターゲットにすべきだ。朝日連峰や最上川、リンゴなど朝日町の持っている特有の素材を生かす手段をとくにこれから、若い人が真剣に考え、実行に移してもらいたい」と強調しました。

この広場は、町内の話題や皆さんの声でつくるページです。
どしどしお寄せください。

新年を迎えて

東京連絡事務所だより No.29

みなさま明けましておめでとございます。月並なあいさつですが、やっぱり心がひきしまります。

連絡事務所も開設以来三年があっという間に過ぎました。

朝日町誕生30周年、小林町長3期目と偶然の一致でしようが、縁起のよい数字③が並びました。今年こそは何かできるような気になっていきます。

先般役場に伺った際、ある経営者のかたにお会いし、「今後、連絡事務所も町政ベースのみでなく、民間ベースでも動いてもらいたい」との要望をいただきました。

多少荷が重いという感がありますが、できる限り頑張ります。ともあれ町の連絡事務所なので、大いに御利用くださるよう……。

最後に事務所からのお願いです。

上京の際はぜひお立寄りいただき、事務所の動きを見てくださるようお願いいたします。

どうぞ皆様、今年も良い年でありますよう、東京の空からお祈り申し上げます。

*朝日町東京連絡事務所

▽住所 東京都中央区日本橋蛸殻町一―二六―四
今井ビル・俣友井商事内
▽電話 03-6666-17002



今日の顔

白倉スキー場婦人部のまとめ役

白倉 渋谷キヨエさん



白倉スキー場が出来て七年目。最初の年からスキー客の食事をまかなっている管理組合の婦人部。管理棟での軽食に加え、二年前にはロッジしらくらが設置され、様々なメニューをそろえるようになった。

その婦人部のまとめ役がこの人。「ロッジでのメニューを軌道に乗せるまではたいへん苦労しました。でも今では、メンバーのチームワークもばっちり。運営もうまくいくようになりました」。

七年もスキー場で働いていると、たくさんの人と知り合いになり、忙しいながらも楽しい毎日だという。今シーズンは、管理棟を改築し、新たにレストハウス「かもしか」と命名。これまでのようにカップラーメンでなく、カレーライスや焼きそば、天ぷらそば、月見そばなど大衆向けの食事を出すようになった。

「接客態度などにも気を付け、つとめて明るくふるまうようにしています」。

お客さんに喜ばれる食事を、とスキー場の母ちゃんたちは、はりきっている。

大暮山に水道完成

☆農村総合整備モデル事業

昭和58年度から工事が進められていた大暮山地区の営農飲雑用水施設がこのほど完成し、12月18日竣工式が行われました。

この施設は、区民240人を給水人口とし、一日最大給水量100㎥を目標としたもので、事業費6,246万円をかけています。

当地区ではこれまで自家用井戸や湧水を引いて使用していましたが、水量不足に加え飲料不適でした。このたびの営農飲雑用水施設の完成により飲用、防火・農業用水の整備が図られたことになります。



滅菌室などが整っている配水池

朝日分校

安心して学べる学校に

分校整備促進同盟会が県へ陳情

県立左沢高校の本校々舎が左沢の元光風園跡地に建設され、間もなく完成しようとしています。

そのため町民の中には朝日分校が近いうちになくなるんではないかという不安や誤解している人がいるようです。そこで朝日分校で学ぶ生徒が安心して教育を受けるために校舎の改築をしていただくよう去る十二月十四日、板垣県知事や大竹教育長に対し陳情を行いました。

入学する生徒がいる限り、地元の皆さんの合意を得ないでは絶対統廃合はしません」と言明しています。しかし、入学者が減っている現在、今すぐ校舎を改築することはできかねると言っており、入学者が増えれば近い将来に改築することも可能であると感じて来しました。



県教委へ朝日分校の整備を強く訴える陳情団

善意のかご

▽赤い羽根共同募金

戸別募金をはじめ法人、学校、街頭募金など合わせて
九六七、三六六円

▽歳末助け合い

募金総額九四一、〇〇〇円
配分内訳 町内の恵まれないかたへ七二二、〇〇〇円
施設入所者(七十三名)へ
二一九、〇〇〇円

▽佐藤源六さん(栄町)

社会体育の充実のためスト
ップウォッチ(三万五千円)

▽鈴木俊昭さん(小原)

和合小図書整備に五万円
▽今野優さん(本町) 宮
宿小百十周年記念に赤松
(三万円)

▽柴田とみ子さん(大滝)

町へ花瓶(二万八千円)
▽伊藤政義さん(助ノ巻)

町へ額装拓書(三万円)
▽白田詔夫さん(大谷五)

故白田正蔵さんの木工作
品売上げ金二五、四八五円
を社会福祉協議会へ

▽阿部正見さん(ハッ沼)

社会福祉協議会へ二〇、
七四〇円

古道を ぞくぞくと

⑨

酒田さ行くさげ

達者で居ろちや
流行風邪など

ひかねよに
まっかん大根の塩汁煮
塩がしょぼくて

喰らわんねえちや

舟唄は最上川のさざ波に
ひびき、さざ波は瀬となり
洄りとなって、静かに流れて
いく。

最上川は、本県にとって
昔は、物資輸送の大動脈で
あった。

向い側に渡るにも命がけ
であった。大巻の渡しは、
大隅と栗木沢間の渡し場で



昔の面影を残す渡し場

あった。遠い昔はおそら
く、丸木舟で渡ったであろ
う。記録に見えるのは、約
一八〇年前の享和年間であ
る。

栗木沢柴田周三さんの記
録に

「御舟一艘 内法
長さ 七間三尺
幅 五尺五寸
深さ 一尺四寸
但、銚子 一尺二寸

大巻の渡し

大隅 栗木沢

御舟丁板、厚さ二寸八
分、はた板厚さ二寸二分
此の木共杉板、釘、銚子凡
五百三十挺程、等 吟味

右代金八両式分
請負人 原町 勇吉

組合 源助

享和元年三月

御普請方 堀 竜助様
全 吉田祐助様

とある。舟は思ったより大
きく最上川上流でよく使わ
れた小鵜飼舟であった。こ
の文書は大巻村渡し舟請負

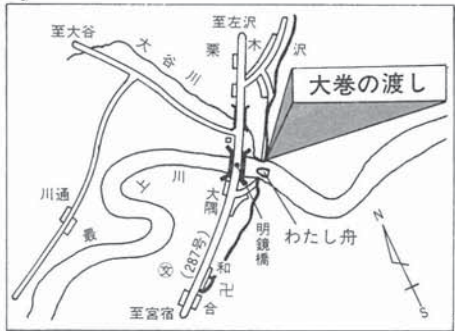
の證文として、請負人から
代官所に出された文書であ
る。舟の耐用年数は大体七
八年から十二年位であった。
舟大工はいつも「赤釜村善
助に請負仰付候」とある。

善助は舟大工として名工で
あった。渡し賃は天保の頃
一人片道十文であった。

明鏡橋が初めて架けられ
たのが明治八年、その後明
治十四年架けかえられた。

通行人から集める「橋銭売
渡し證券」が現在中沢五十
嵐惣助家に保存されている。
現在の永久橋は四代目で、
昭和十二年十二月再架橋さ
れたものである。

(文/広報委員 長岡幸助)



せせらぎ

「一年の計は元旦
にあり」という言葉
がある。年の初めに
当り、今年一年をど
う生きるか、生活の
設計を新たな気持ちで
考えてみたいもの。

さて、過ぎた昭和五十九年
はいろんな事があった。それ
も事件や事故のニュースがあ
まりにも多すぎた。果たして
六十年はどんな年になるだろ
うか。願わくば明るいニュー
スにあふれ、活気に満ちた一
年であってほしいものだ。

ところで、小林町政も三期
目のスタート。意を新たにし
て町づくりの仕上げを……と
いうその熱意には大きな期待
が寄せられる。しかし、それ
もあまた任せ、行政任せであ
ってはなるまい。「みんなが
英知を結集して」とあるよう
に、町民ひとりひとりがそれ
ぞれの立場で知恵と力を出し
合い自ら努力していくことが
不可欠ではないだろうか。

とくに、国民総評論家時代
などとも言われるように、言
う事は言うが実践する人は少
なくなつたともいう。今年こ
そ行動の年、実践の年にした
いと思うのは筆者だけであろ
うか。

(緑生)